

最新高等院校日语专业系列教材

日语泛读教程 (下)



华东理工大学出版社

主审◎陈岩 崔香兰

主编◎佟玲 王胜波 张红艳

审校◎荒井勇 池上孝

〔
寺院校日语专业系列教材

日语泛读教程（下）



华东理工大学出版社

· 上海 ·

主 审 ◎ 陈 岩 崔香兰

主 编 ◎ 佟 玲 王胜波 张红艳

副主编 ◎ 刘子璇 刘 琳 于晓冬

颜景义 李顺英 李义楠

审 校 ◎ 荒井勇 池上孝

图书在版编目(CIP)数据

日语泛读教程(下) / 佟玲,王胜波,张红艳主编. —上海:
华东理工大学出版社,2016.6

ISBN 978-7-5628-4485-3

I. ①日… II. ①佟… ②王… ③张… III. ①日语-
阅读教学-高等学校-教材 IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 313072 号

策划编辑 / 王一佼

责任编辑 / 金美玉

装帧设计 / 靳天宇

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地址:上海市梅陇路 130 号,200237

电话:021-64250306

网址:www.ecustpress.cn

邮箱:zongbianban@ecustpress.cn

印 刷 / 常熟新骅印刷有限公司

开 本 / 710mm×1000mm 1/16

印 张 / 12.25

字 数 / 243 千字

版 次 / 2016 年 6 月第 1 版

印 次 / 2016 年 6 月第 1 次

定 价 / 35.00 元

版权所有 侵权必究

前言

PREFACE

本套教材由《日语泛读教程(上)》《日语泛读教程(下)》两册构成,适用于日语专业泛读、大学日语阅读等课程教学,也可供广大日语爱好者自学使用。本套教材的编写是以《高等学校日语专业本科教学质量国家标准》为依据,以培养学生的日语读解能力、思辨与创新能力、日语综合运用能力为宗旨,集中体现了能力培养系统性、题材选择广泛性、实践训练开放性等特点。

能力培养系统性: 本套教材的内容安排是以读解能力的培养为主线,通过每课设置的【読解手引き】,以“如何理解文章主题”“如何获取隐藏信息”“如何把握副词在文章中所起到的作用”等专题形式由浅入深、循序渐进地针对读解能力的培养进行强化训练。

题材选择广泛性: 本套教材的内容选材涉及小说、评论、随笔、访谈等多种形式,内容经典,且篇幅及难易度适当。旨在通过广泛摄取各种题材的文章精华,提高学习者的日语阅读兴趣,拓宽视野,并进一步加深对日本社会及日本人思维方式的理

实践训练开放性: 本套教材的实践训练部分有【応用問題】及【実践問題】两项内容。其中【応用問題】参考了“新日本语能力考试”的读解题型而设计,通过选择正确选项的形式检验对课文内容的理解程度;而【実践問題】则是以培养学习者的发散性思维、创新能力、日语综合运用能力为目的而设置的开放性思考问题。

本套教材每册各设置 20 篇课文及 10 篇拓展阅读文章,建议课文部分教学学时为 2 学时,拓展阅读文章部分可以根据教学情况灵活调整。教材附录部分附有课文译文及应用问题答案。

本套教材在编写过程中得到陈岩教授、崔香兰教授的大力指导,在此表示衷心的感谢。

囿于编者水平所限,不足之处在所难免,恳请各位专家、学习者多提宝贵意见。

编者

2015 年 12 月

目 录

CONTENTS

第1課	心の動きを追ってみる〈小さな出来事〉	1
第2課	文章技巧を味わう〈横光利一と川端康成〉	7
	焰の中	14
第3課	指示内容をつかむ〈自動販売機〉	17
第4課	引例の働き〈竹〉	23
	場所	28
第5課	部分の意味もしっかりと〈科学の進歩は何のためか〉	31
第6課	文の接続関係を見る〈童謡でてこい〉	37
	百代の過客	43
第7課	文章の構成を考える〈儒者の言葉〉	47
第8課	表題を考える〈読者の世界〉	53
	ワシントンの街から	60
第9課	要旨をとらえる〈さまざまな旅〉	63
第10課	趣旨をとらえる〈わが人生の断片〉	71
	若者の法則	77
第11課	記述解答に習熟する〈日本人のイメージ構造〉	79
第12課	文脈をとらえて読む〈新しい対話の時代〉	87
	色と糸と織と	94
第13課	心情をとらえる〈作家の手帖〉	97
第14課	接続関係を見抜く〈「美」について〉	103
	「あそび」の哲学	109
第15課	副詞の意味用法を押さえる〈陰翳礼讃〉	111
第16課	語句の説明をする〈童児と昔〉	117
	文化について	122
第17課	指示内容を正しくとらえる〈「考える葦」の場合〉	125
第18課	適切な語句を選択する〈見る悪魔〉	131
	詩・ことば・人間	139

第19課	具体例を把握する〈大導寺信輔の半生〉	143
第20課	比喻の本義をとらえる〈モーツァルト〉	149
広く読もう10	人間、この非人間的なもの	156
附录1	参考答案	159
附录2	参考译文	164
	参考文献	188

第1課

心の動きを追ってみる〈小さな出来事〉

魯迅 作
竹内好 訳

【本文要約】

ある日、作者の乗った人力車に、ひとりの老婆が突きあたって、地に伏したままではいる。車夫はそれを助け起こしてやった。最初は作者は車夫がよけいなおせっかいばかりやきたがると思っていたが、車夫が老婆を助けながら、派出所へ向かって歩いて行く後ろ姿を見て、急に車夫の偉大な人間性と自分の「卑小」を感じた。

【読解手引き】

心の動きを追ってみる——具体的な描写に潜むものは何か。

1. 具体的な描写に潜んでいるものを考えてみよう。
2. 事実の推移や具体的な情景の描写の中に潜んでいる人物の心の動きに注意しよう。
3. 自分がその人物の位置や立ち場に立ったつもりでよく読み味わってみよう。

〈これまでの事件のあらまし〉

ある日、作者の乗った人力車に、ひとりの老婆^{ろうば}が突きあたった。老婆は地に伏したままにいる。

車夫はそれを助け起こしてやった。

わたしは心に思った。おまえさんがゆっくり倒れるところを、この目で見たんだぞ。けがなんかするはずがあるものか。①狂言にきまっている。実に憎むべきやつだ。車夫はまた車夫で、よけいなおやかはいばかりやきたがる。すき好んで苦しいめを見たいというなら、どうともかってにするがいい。

車夫は、老婆の言うのを聞くと、少しもためらわずに、その腕を支えたまま、ひと足ひと足、向こうへ歩きだした。私はけげんに思って、向こうを見ると、そこには巡査派出所があった。大風のあとで、表には誰も立っていない。車夫は老婆を助けながら、その派出所の正面へ向かって歩いて行くのであった。

わたしはこのとき突然、一種異様な感じに襲われた。②ほこりにまみれたかれの後ろ姿が、急に大きくなった。しかも、去るにしたがって、ますます大きくなり、仰がなければ見えないくらいになった。しかも、かれはわたしにとって、しだいに一種の威圧めいたもの^{いあつ}に変わっていった。そしてついに、毛皮裏のわたしの上着の下にかくされている「卑小」をしばらく出さんばかりになった。

わたしの生きる力は、このとき、しばらく凍りついてしまったようであった。やがて派出所から一人の巡査が出てくるのを認めて車を降りるまでは。

巡査はわたしのところまで来ると、言った、「ご自分で車を見つけてください。あの車夫は、引けなくなりましたから」

わたしは考えるいとまもなく、がいのポケットからひとつかみの銅貨を取り出して、巡査に渡して言った、「これを車夫に…」

風はまったくやんでいた。往来はひっそりとしたままである。わたしは歩きながら考えた。しかし、考えが、自分自身のことに触れてくるのを、極力自分に恐れているらしかった。以前のことは問わぬにしても、③いったい、あのひとつかみの銅貨はなんの意味だろう。かれへのほうび？わたしに車夫がさばける？わたしは自分に答えられなかった。

語釈

◆ 突き当たる

自五 ①進んで行ってものに勢いよく当たる。衝突する。ぶつかる。冲撞, 冲突; 撞上, 碰上。●トラックが電柱に～。/卡车撞到电线杆子上。②それ以上まっすぐ先に進めない所にまで来る。走到尽头。●路地を～って左にまがる。/走到胡同尽头向左转。③難問や障害に直面する。遇上, 碰到。面临难题或障碍。●困難に～。/遇到困难。

◆ 狂言

名 ①人を欺くために仕組むたくらみ。诡计, 骗局。●～強盗/假裝遭到搶劫 ②道理にはずれた言葉や行為。たわごと。戏言, 诨语。●自分の失敗を一場の～としてすます。/把自己的失败当作一场笑话混过去。

◆ 節介

名 よけいな世話をやくこと。管闲事, 多嘴多舌。●～焼き/爱管闲事的人

◆ どうとも

副 どのようにでも。いかようにも。どうでも。如何, 怎样。●～好きにしてくれ。/想怎么样就怎么样吧。

◆ 怪訝

名・形動 そんな事が実際にあるのかというように不思議がる様子。诧异, 惊讶, 感到奇怪; 莫名其妙。●～な顔つきをしている。/露出莫名其妙的神色。

◆ 卑小

名・形動 価値が低くて取るに足りないさま。ちっぽけなさま。卑微, 微贱。●～な存在/卑贱的存在

◆ 裁く

他五 善悪・理非の判断をする。裁判, 审判, 排解, 从中调停; 评理。●けんかを～。/排解争吵, 劝架。

文法解説

1. ～めく/めいて/めいた

接在名词后, 表示“带有……的气息”“变成……的样子”“有一点……的感觉”。

例文 ①彼女は謎めいたことばを残して、その場を去った。/她留下了谜一般的话语离开了那个地方。

②そんな皮肉めいた言い方をしないでください。/请不要用这种话里带刺的讲话方式。

2. 「～んばかりだ/～んばかりに/～んばかりの」

接在动词未然形后。表示“差点要……”“几乎要……”“好像……”。

例文 ①大風が吹いて、街路樹の枝が今にも折れんばかりだ。/刮着大风，街道两旁的树枝好像马上就要被刮断了。

②恩師はわたしの手をとらんばかりにして、合格を祝してくださった。/恩师祝贺我合格，几乎要抓起我的手了。

応用問題

問1 ①「狂言にきまっている」とあるが、だれのどういう様子のことをそう思ったのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 老婆が大怪我をして、動けない様子のこと
- B 実際はたいしたことはないのに、老婆が大怪我をしたようなふりを見ていること
- C 車夫が老婆を助け起こしてやった様子のこと
- D 車夫がよけいなおせっかい焼きたがる様子のこと

問2 ②「ほこりにまみれたかれの後ろ姿が、急に大きくなった」とあるが、なぜそう見たのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 作者は車夫より背が低いから
- B 車夫の後ろ姿を仰いで見ているから
- C 老婆を助ける車夫の行為に感動したから
- D 自分の「卑小」を絞り出したから

問3 ③「いったい、あのひとつかみの銅貨はなんの意味だろう。かれへのほうび？わたしに車夫がさばける？わたしは自分に答えられなかった」とあるが、作者が一掴みの銅貨を与えた理由をはっきり書かなかったのはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 理由ははっきりしないので、何とも書きようがないから
- B 理由はだいじなことなので、もっと深く考えたいから
- C 理由はたいしたことないので、書く必要がないから
- D 理由は自分もよくわからないので、読者にたずねたいから

問4 わたしの気持ちは、どのように変化しているか。次のア～オを並べ変えて、その正しい順序を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分をいやしく感じる。 イ 車夫の行動を不思議がる。
 ウ 自分の行いを悔やむ。 エ 老婆に対して憎しみをもつ。
 オ 強い感動のためにぼうぜんとしている。

- A イ エ ア ウ オ
 B イ エ ウ ア オ
 C エ イ オ ア ウ
 D エ イ オ ウ ア

実践問題

【本文のポイント】

「わたし」の心理の推移を考えてみなさい。

△「一種異様な感じ」とは、
 _____。

△「生きる力は、このとき、しばらく凍りついてしまったようであった」は、
 _____。

第2課 文章技巧を味わう〈横光利一と川端康成〉

三島由紀夫

【本文要約】

川端康成の小説にたびたび用いられる頻繁な改行の技巧の効果は、音の突然の断絶にある。近作「山の音」の老いた信吾が月夜に不吉な山の音をきくところを分析してみると、その破調破韻の文章の鬼気は、行を改められた文章の突如の変調と構成の乱雑さにより生み出されていることが分かる。大体川端康成の小説の文章が効果を上げている部分は、大抵こういう特色を持っている。何度かの躊躇や中断を叙述の間にはさみながら、稲妻のような不吉な一行を、さっさと閃かせてゆく技巧である。

【読解手引き】

文章技巧を味わう——典型的な表現技巧は何か。

1. 川端康成の「山の音」における典型的な表現技巧をまとめてみよう。
2. その表現技巧はどのように表現されるか考えてみよう。
3. その表現技巧の効果を言ってみよう。

川端康成の小説にたびたび用いられる頻繁な改行の技巧は、音の突然の断絶の効果ではあるまいか。

(略)

近作「山の音」(昭和二十四年～昭和二十九年)では、こうした「音楽のない文章」は、一種の鬼気を生むまでにいたった。老いた信吾が月夜に不吉な山の音をきくところを、かなり長く引用する。

- 1 八月の十日前だが、虫が鳴いている。
- 2 木の葉から木の葉へ^{よつゆ}夜露の落ちるらしい音も聞こえる。そうして、ふと信吾に山の音が聞えた。
- 3 風はない。月は満月に近く明るい、しめっほい夜気で、小山の上を描く木々の輪郭はぼやけている。しかし風は動いてはいない。
- 4 信吾のいる廊下の下のしだの葉も動いていない。
- 5 鎌倉のいわゆる^{やと}谷の奥で、波が聞える夜もあるから、信吾は海の音かと疑ったが、やはり山の音だった。
- 6 遠い風の音に似ているが、地鳴りとでもいう深い^{そこちから}底力があった。自分の頭のなかに聞えるようでもあるので、信吾は耳鳴りかと思って、頭を振ってみた。
- 7 音は止んだ。
- 8 音が止んだ後で、信吾ははじめて恐怖におそわれた。死期を告知されたのではないかと寒けがした。
- 9 風の音か、海の音か、耳鳴りかと、信吾は冷静に考えたつもりだったが、そんな音などしなかったのではないかと思われた。しかし確かに山の音は聞えていた。
- 10 魔が通るかかって山を鳴らして行ったかのようなようだった。
- 11 急な^{こうばい}勾配なのが、水気をふくんだ夜色のために、山前面は暗い壁のように立って見えた。信吾の家の庭におさまるほどの小山だから、壁と言っても、卵形を半分に切って立てたように見える。
- 12 その横やうしろにも小山があるが、鳴ったのは信吾の家の裏山らしかった。

この破調破韻の文章の鬼気はどこから来るのか、分析してみよう。

川端康成の常套手段である前置的解説は、「鎌倉のいわゆる谷の奥で、波が聞える夜もあるから、信吾は海の音かと疑ったが、やはり山の音だった」云々の数行である。こういう解説で、必ず一度文章の流れを引き止める方法を、氏は好んでとる。まず引用の最初に、「木の葉から木の葉へ夜露の落ちるらしい音も聞こえる。そうして、ふと信吾に山の音が聞えた」とある。

これが意味不明な「山の音」の第一の提起である。次に、風がないこと、月の明るいこと、海の音と疑われたこと、風の音に似ていること、耳鳴りかと思したこと、が述べられる。ここまでは意味不明な山の音は、一そうその意味の不明さを深められ、それが「音は止んだ」と結ばれる。

死の恐怖が急に襲う。文章上の転調のおそろしさ。

次に、川端康成独特の、くりかえしの手法で、もう一度疑問が提起される。

次に又、おそろしい転調。「魔が通りかかって山を鳴らして行ったかのようだった」という一行である。

次に、はじめて、場所の詳細な説明が試みられ、最後に、「その横やうしろにも小山があるが、鳴ったのは信吾の家の裏山らしかった」という不気味な推定乃至確認で結ばれる。

こう見てくると、鬼気は次の二つから生ずる。

第一に、行を改められた文章の突如の変調。

第二に、構成の乱雑さ。故意の重複と、故意に叙述を前後させてあること。

もし右のいきさつが、最後の場所の説明からはじめられ、次に風のないことと月夜であることが説明され、それから、海の音か、風の音か、耳鳴りかという疑問が提起され、それからのはじめて、音の説明に入るとしたら、論理的には正確だが、鬼気は生じなかつたろう。

大体川端康成の小説の文章が効果を上げている部分は、大抵こういう特色をもっている。何度かの躊躇や中断を叙述の間にはさみながら、稲妻のような不吉な一行を、さっさと閃かせてゆく技巧である。

◆ 鬼気

名 ぞっとするような恐ろしい気配。阴气, 阴森之气。

● 殺人現場の～迫る光景/杀人现场的阴森森的情景

◆ おさまる

自五 ①ある場所にきちんと入る。容纳, 收纳。● 一部屋にちょうど五人ずつ～った。/每个房间正好容纳了五个人。②ある範囲に入る。ある位置・役割に落ち着く。安坐, 安居; 成为。● 彼は今では会社の社長に～っている。/他现在安坐在公司总经理的职位上。③異常な状態が終了し、平常を回復する。平息, 结束, 解决。● 火事は朝になってやっと～った。/大火燃烧到早晨才扑灭。

◆ 云々

名 ①あれこれ言う。说三道四, 说长道短。● 薬の効能について～する。/议论药品的功效。②しかじか。云云, 等等。● 大会の運営～のことは後回しにする。/关于大会的安排等问题留待以后再说。

◆ 不気味

形動 正体が知れず、きみの悪いこと。(不由得令人)毛骨悚然, 令人害怕。● あたりは～に静まり返っていた。/周围静得令人毛骨悚然。

◆ いきさつ

名 こみいった関係。事件の経過。经过, 原委, 底细, 内情。● 人にも言えないような～がある。/有难言之隐。

◆ 稲妻

名 ①空中電気の放電する時にひらめく火花。闪电。● ～が光る。/打闪。②動作の速いこと。飞快, 闪电一般。● ～のような速さで身を隠した。/飞快地躲了起来。

◆ 閃く

自五 ①瞬間的に光る。閃耀, 闪烁。● 西の空でときどき稲妻が～いた。/西边的天空不时地发出雷电闪光。②旗・紙などがひらひらとする。飘动, 飘扬。● 万国旗が風に～いている。/万国旗随风飘动。③思いつきなどが瞬間的に頭に浮かぶ。闪现, 忽然想出。● 名案が～。/忽然想出妙计。

文法解釈

I. 「まで」「ほど」的辨析

(1)「～まで」

接在名词、动词、形容词终止形后, 表示“事情发展到了某种程度”。

例文 ①納得がいくまで説明を求める。/要求解释到令人信服为止。

②もう食べられないというまで食べた。/吃到吃不下为止。

(2)「～ほど」

接在名词、动词、形容词终止形及「これ・それ・あれ・どれ」后,表示“程度”。

例文 ①変化がこれほど激しいとは思わなかった。/没想到变化这么大。

②あの二人は驚くほど似ている。/他们两人长得像极了。

辨析 「まで」形容程度的最终阶段,而「ほど」是举例说明其程度大小。如下列例句①使用「まで」,意为“走到脚疼就停下了”。例句②使用「ほど」,意为“走的过程中脚疼”,是对走路辛苦程度的一种形容。

例文 ①足が痛くなるまで歩いた。/走到脚疼为止。

②足が痛くなるほど歩いた。/走得脚都疼了。

2. っぽい

(1)接在名词后,表示“具有……的性质”“(强烈)感觉到……”。

例文 ①子供っぽいことをするな。/别干孩子气的事。

②あの人は理屈っぽい人だ。/他是个好讲大道理的人。

(2)接在动词连用形后,表示“有……倾向”“好……”。

例文 ①最近忘れっぽくなった。/最近好忘事儿。

②彼は飽きっぽい性格だ。/他没常性。

(3)接在形容词、形容动词词干后,表示“觉得具有……性质”。

例文 ①この時計は安っぽい。/这块表像是便宜货。

②彼女は身のこなしがあだっぽい。/她身材好。

応用問題

問1 小説本文を四段落に分けるとしたら、どこで区切るのが適当か。次から選び、記号で答えなさい。数字は小説本文の冒頭の一行の番号である。

- A 第一段落(1～2)、第二段落(3～6)、第三段落(7～9)、第四段落(10～12)
- B 第一段落(1～2)、第二段落(3～7)、第三段落(8～10)、第四段落(11～12)
- C 第一段落(1～3)、第二段落(4～6)、第三段落(7～9)、第四段落(10～12)
- D 第一段落(1～3)、第二段落(4～7)、第三段落(8～10)、第四段落(11～12)